

CITY OF YOKOHAMA

横浜市中期計画 2022－2025

最終振り返り

令和8年9月

横浜市政策経営・国際戦略局

明日をひらく都市

OPEN X PIONEER

目次

I	はじめに	1
1	横浜市中期計画 2022-2025 とは	
	（1）計画期間	
	（2）計画の特徴	
II	中期計画の最終振り返りの概要	2
1	最終振り返りの実施方法 ～計画の特徴を踏まえて～	
	（1）定量データの状況	
	（2）市民インタビュー・有識者ヒアリングの状況	
2	これまでの主な取組と実績	3
3	市民インタビュー・有識者ヒアリングでのご意見	16
	（1）市民インタビューの実施	
	（2）市民インタビューで寄せられたご意見	
	（3）市民の皆様の暮らしの意識の状況	
	（4）有識者ヒアリングの実施といただいたご意見	
4	本資料の位置づけ	41

I はじめに

1 横浜市中期計画 2022-2025 とは

「横浜市中期計画 2022-2025」（以下「中期計画」という。）では、2040 年頃の横浜のありたい姿として描いた、共にめざす都市像「明日をひらく都市」の実現に向け、基本戦略「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」を掲げるとともに、中長期的な戦略と計画期間の 4 年間に重点的に取り組む政策をとりまとめました。あわせて、政策を進めるに当たり土台となる行財政運営を示しました。

なお、中期計画のうち、共にめざす都市像「明日をひらく都市」、「基本戦略」、「戦略の方向性、主な内容」、「政策の目標、現状と課題」などに関する部分について、令和 4 年第 4 回市会定例会において議決をいただきました。

（1）計画期間

2022（令和 4）年度から 2025（令和 7）年度までの 4 年間

（2）計画の特徴

この計画は、人口減少局面を迎えた中で策定した、初めての中期計画です。2040 年頃のありたい姿として描いた、共にめざす都市像「明日をひらく都市」の実現に向けて、基本戦略・9 つの戦略により中長期的な方向性を示しながら、38 の政策をまとめるとともに、政策と施策・事業のつながりを持たせるため、政策-施策-事業を初めて体系化しました。また、限られた資源を有効に活用し、持続可能な市政運営を実現できるよう、施策の方向性・指標までを明示しつつ、各年度の予算編成の中で、最も施策の達成に効果的な事業を追求することを特徴としています。

さらに、データに基づく市政運営を推進するため、可能な限りアウトカム指標を設定しています。

Ⅱ 中期計画の最終振り返りの概要

1 最終振り返りの実施方法 ～計画の特徴を踏まえて～

中期計画は、「子育て」「防災」をはじめとする諸課題に対し、単に行政が「どのような事業をどれだけ実施したか（アウトプット）」ではなく、「事業の実施の結果、どのような成果につながったか（アウトカム）」を重視し、初めて、指標にアウトカム指標を導入した計画です。また、計画期間中は、新型コロナウイルス感染症の影響による地域経済・事業活動の停滞や生活様式・消費行動の変化等が継続し、策定時には予期し得なかった外部環境の変化が長期にわたって生じていました。このような中、令和6年度に実施した中間振り返りでは、計画開始時の「現状値（令和3年度実績）」との比較等から、改善・向上が図られているかを確認するとともに、「施策や事業により、市民生活の安心・安全や都市の持続可能性の確保等につながっているか」との視点も合わせて総括を行いました。

こうした前提を踏まえ、本振り返りにおいても、中間振り返りと同様に、「指標の改善・向上の状況」と、「市民の皆様の意識・状態等実感の把握、有識者による専門的な知見」の双方を重ね合わせ、多面的・多角的に検証することとしました。

（１）定量データの状況

中期計画に掲げた全指標のうち、約9割（90%）において、計画開始時の現状値を上回る改善・向上が見られました。なお、新型コロナウイルス感染症の影響等の外部環境の変化による影響を除外した目標達成率は約8割（79%）となっており、厳しい社会経済情勢下にあっても、市民生活の安心・安全や都市の持続可能性の向上等を進めてきました。

（２）市民インタビュー・有識者ヒアリングの状況

市民の皆様へのインタビューからは、生活の「安心感」に結びついているとのご意見がありました。また、有識者からは外部環境の変化が激しい中、着実に施策を推進したとのご意見がありました。

2 これまでの主な取組と実績

中期計画 2022-2025 では、共にめざす都市像「明日をひらく都市」の実現に向け、基本戦略「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」を掲げ、「住みたい都市」「住み続けたい都市」「選ばれる都市」を目指してきました。

基本戦略の実現に向け、4 ページから 13 ページのとおり取り組みました（計画期間（令和 4 年度～令和 7 年度）における主な取組を記載）。



テーマ 01 子育て世代への直接支援

計画期間（令和4年度～令和7年度）における取組

【子育て支援の取組】

○待機児童対策の推進

- ・保育・幼児教育の受入枠の確保（1・2歳児を中心に受入枠確保）＜待機児童数：2年連続0人（令和7年・令和8年4月1日時点）＞
- ・医療的ケア児等の受入環境整備（「医療的ケア児サポート保育園」認定）＜認定数：34園＞
- ・保育・幼児教育を担う人材の確保（潜在保育士の復職に向けた就労奨励金の交付等）＜就労奨励金を利用した復職者数：38人＞

○こどもと向き合うゆとりの創出

- ・おむつ等の持参をなくす「にもつ軽がる保育園」実施（令和6年度）＜実施園数：701園（令和8年4月1日時点）＞
- ・朝の居場所づくりモデル事業の実施（令和6年度）＜実施校数：10校（令和8年4月1日時点）＞
- ・横浜型短時間預かりの新設に向けた検討・推進（令和7年度）＜利用者数（一時保育・乳幼児一時預かり等）：17,187人＞
- ・多様な保育・教育ニーズへの対応（病児・病後児保育事業の充実）＜利用者数：50,026人＞

○経済的ゆとりの創出

- ・中学3年生までのこどもの医療費の無料化（令和5年8月）、18歳まで拡大（令和8年6月）
- ・出産育児一時金50万円に加え市独自に9万円助成。公的病院での基礎的な出産費用を100%カバー【政令市初】（令和6年度）

○DX化の推進

- ・子育て応援アプリ「パマトコ」リリース（令和6年度）【自治体初】＜登録者数：163,063人（令和8年3月31日時点）＞
- ・オンライン化による利便性向上に向けた地域子育て支援拠点関係システム再構築（令和4年度）＜オンライン化実施率：100%＞

○こどもの成長環境の充実

- ・乳幼児期から英語や文化に親しむ「プレイフルラーニング」実施（令和7年度）＜実施園数：市立保育所15園（令和8年4月1日時点）＞
- ・地区センターのプレイルームをリニューアル（令和6年度）＜実施箇所数：27箇所（令和8年4月1日時点）＞



こどもの医療費の無料化



長期休業期間における
放課後キッズクラブでの昼食提供



子育て応援アプリ「パマトコ」

【教育環境整備の取組】

○安心・安全な教育環境の整備

- ・小中学校へのエレベーター設置の加速＜整備数：82校＞
- ・小中学校における体育館空調の整備＜整備数：84校＞
- ・学校には登校できるが、教室に入ることができない生徒への支援を目的とした「校内ハートフル支援員」の全校配置（令和6年度）
- ・不登校の小中学生とその保護者を支える総合的支援拠点「ハートフルセンター上大岡」開設（令和7年度）＜延べ利用者数：1,924人＞

○教育 DX の推進（デジタル学習基盤の整備等）

- ・学習ダッシュボード「横浜 St☆dy Navi（よこはまスタディナビ）」の導入による、「IRT 型の学力調査」を活用した児童生徒一人ひとりへの指導支援（令和6年度）
- ・電子書籍サービス「Yomokka！（よもっか!）」の導入（令和7年度）
- ・家庭と学校をつなぐ連絡システム「すぐる」の導入（令和6年度）

○グローバル教育の充実

- ・AET※の増員（令和6年度）＜配置数：758人（令和6・7年度）＞
- ・グローバルモデル校（3校）の設置（令和6年度）
- ・英語体験型プログラム「イングリッシュ・クエスト」＜参加者数：1,069人（令和5年度～令和7年度）＞
- ・短期留学支援の推進（令和7年度）＜利用者数：59人＞
- ・長期留学プログラムの新設（令和7年度）＜利用者数：20人＞

○食を通じた健康づくりと学齢期におけるゆとりの創出

- ・令和8年4月からの中学校給食全員給食実施に向けた推進
- ・小学生の長期休業期間における放課後キッズクラブ・放課後児童クラブでの昼食提供の開始（令和6年度）



快適な学校環境の整備



「横浜 St☆dy Navi」の導入による
児童生徒一人ひとりへの指導支援



グローバル社会で活躍できる人材育成



中学校給食の充実

※AET：Assistant English Teacher の略。英語指導助手。担任等を補助する英語話者講師

テーマ02 コミュニティ・生活環境づくり

計画期間（令和4年度～令和7年度）における取組

【コミュニティづくりの取組】

○安心して暮らせるまちに向けた防犯対策の推進

- ・防犯カメラ設置に対する自治会町内会への補助拡充＜設置箇所数：549箇所＞
- ・LED防犯灯の新規設置の促進＜設置箇所数：1,099箇所＞
- ・ビッグデータを活用した通学路の交通安全対策＜対策実施地区数：58地区＞

○地域活動支援の推進

- ・脱炭素化に向けた自治会町内会館への省エネ設備の導入経費の補助＜補助件数：687件（令和6・7年度）＞
- ・市民主体のまちづくり活動の推進に向け、ヨコハマ市民まち普請事業「子育てプラス」の創設＜整備件数：10件（令和5年度～令和7年度）＞
- ・地域で活動する団体のイベント情報やボランティア情報を集めたポータルサイト「よこむすび」の開設（令和7年度）
＜ユニークユーザー数：34,654人、団体登録数：324件＞

○多文化共生の推進

- ・日本語支援拠点の新設（都筑区（市内3箇所目））（令和4年度）＜入級者数：218人（令和4年度～令和7年度）＞
- ・国際交流ラウンジの新設（神奈川区）（令和6年度）＜ラウンジ運営数：13箇所（令和8年4月1日時点）＞



防犯カメラ設置補助の拡充



自治会町内会館への
省エネ設備の導入経費の補助

【生活環境づくりの取組】

○感染症の特性に応じた対策及び予防接種施策の推進

- ・新型コロナワクチン特例臨時接種の推進＜累計接種回数：1,275万回＞
- ・新型コロナウイルス感染症対応を踏まえた新興感染症対策の推進
- ・带状疱疹ワクチン等の定期予防接種の開始

○総合的ながん対策の推進

- ・65歳がん検診無料化（令和6年度）＜受診者数：47,092人（令和6・7年度）＞
- ・70歳以上がん検診受診後の精密検査の無料化【政令市初】＜助成件数：2,163人（令和7年1月～令和8年3月）＞
- ・子宮頸がん検診HPV検査単独法の導入【全国初】＜受診者数：66,349人（令和7年1月～令和8年3月）＞
- ・胃がん検診自己負担額引下げ（令和6年度）＜受診者数：84,291人（令和6・7年度）＞
- ・小児がん患者同士がメタバースでつながる交流体験開始（令和6年度）＜参加者数：78人（令和6・7年度）＞



がん検診無料化、
精密検査無料化の対象年齢拡大

○地域交通支援の推進

- ・地域公共交通（ワゴン型バスなど）の導入支援（令和7年度）＜運行地区数：16 地区（令和8年3月31日時点）＞

○高齢者にとって暮らしやすいまちづくり

- ・特別養護老人ホームの整備推進＜計画選定数：10 施設、1,332 人分＞
- ・認知症対策推進もの忘れ検診の対象を 65 歳から 50 歳以上に拡大（令和5年3月）
- ・高齢者のこれからの生活や死後の備えのために、緊急連絡先や希望を伝えるエンディングノートともしも手帳の保管（所持）場所などの情報を事前に市に登録できる情報登録事業の開始（令和7年度）＜届出者数：691 人（令和8年4月1日時点）＞
- ・75 歳以上で運転免許証を自主返納した方の敬老パスの3年間無料交付（令和7年度）
＜運転免許証自主返納数（75 歳以上）：11,555 人（うち、敬老パス申請者数：10,337 人）※令和8年1～3月は暫定値＞

○障害児・者にとって暮らしやすいまちづくり

- ・多機能型拠点の整備（港北区（令和6年度開所）、西区（令和7年度設置運営法人決定））＜利用者数：5,246 人（令和8年4月1日時点）＞
- ・パーキング・パーミット制度（障害者等用駐車区画利用証制度）を導入【県内初】（令和6年度）＜交付枚数：7,346 人＞

○子育て世代をはじめとする全ての世代にとって居心地の良い図書館の推進

- ・「今後の市立図書館再整備の方向性」の公表（令和6年度）
- ・新図書館整備基本構想の策定（令和7年度）
- ・のげやま子ども図書館整備（おやこフロア整備）（令和6年度施工、令和7年度開館）
＜おやこフロア入館者数：85,694 人＞
- ・中央図書館1階を小学生以上向けの「こどもフロア」にリニューアル（令和7年度設計）
- ・図書取次拠点の新設（港北区・都筑区）＜拠点数：12 箇所（令和8年4月1日時点）＞
- ・地域館老朽化対策の推進＜着手館数：4 館（令和8年4月1日時点）＞
- ・本の検索や予約を行う「図書館情報システム」を全面リニューアル（令和5年度）



のげやまこども図書館整備

○魅力的な自然環境の整備

- ・公園（2,742 園）の全面禁煙化条例施行（令和7年度）
- ・市民が農を楽しむ取組の推進（農体験の実施等）＜取組実施数：586 回＞

○ご親族をなくされた際の窓口手続きの支援

- ・「お悔やみ窓口」を18 区に設置（令和7年度）＜利用者数：3,587 人（令和8年4月1日時点）＞



公園の全面禁煙化を実施

テーマ 03 生産年齢人口流入による経済活性化

計画期間（令和4年度～令和7年度）における取組

【生産年齢人口流入の取組】

○未来の横浜を見据えたまちづくりの推進

- ・横浜の都市計画マスタープラン（全市プラン）の改定（令和7年度）
- ・第一種低層住居専用地域から第二種低層住居専用地域への変更及び特別用途地区の指定
＜対象箇所数：100箇所＞
- ・郊外部の活性化に向けたまちづくり
＜実施場所：藤が丘駅周辺、ゆめが丘駅・下飯田駅周辺、綱島駅・新綱島駅周辺等＞
- ・上瀬谷地区のまちづくりの推進
- ・子育て世代の住まいへの支援としての省エネ性能がより高い住宅への住み替え・改修への費用補助等
＜費用補助実施数：609件＞



ゆめが丘駅周辺のまちづくり



子育て世代の住まいへの支援

【経済振興の取組】

○企業誘致の推進

- ・GX 投資・企業の呼び込み等に向けた企業立地促進条例の改正（令和6年4月施行）
＜立地企業数：397件（改正後条例による企業立地数：26件 うちGX関連：11件）、雇用創出数：11,532人（令和8年4月1日時点）＞
- ・積極的な企業誘致＜投下資本額：2,722億円＞

○中小企業支援の推進

- ・中小企業等への支援に向けた伴走型経営支援特別資金の創設（令和4年度）
＜融資実績：5,149件、融資額：約1,200億円＞
- ・小規模事業者出張相談＜実施数：852件＞
- ・中小企業向けのカーボンニュートラル設備投資助成事業の実施（令和6年度）＜助成企業数：444社＞
- ・横浜グランドスラム企業表彰制度の新設（令和4年度）＜表彰企業数：135社＞



TECH HUB YOKOHAMA 開設

○オープンイノベーションの推進

- ・「アジアスマートシティ会議」※の開催（令和7年度）＜出展者数：119社＞
- ・海外のスタートアップ支援機関と連携したモビリティ・スタートアップ支援＜支援企業数（スタートアップ含む）：85社＞
- ・テック系スタートアップ支援拠点 TECH HUB YOKOHAMA による支援（令和6年度）
＜会員登録数：146社（令和7年度）、伴走支援社数：14社（令和7年度）、相談件数：40社（令和7年度）＞

○横浜港の国際競争力の強化

- ・横浜港の物流機能強化＜取扱量：約318万TEU（令和7年）【直近15年で最多】＞

※GX分野を中心に国内外から活力を呼び込みオープンイノベーションを目指す国際コンベンション

○新型コロナウイルス感染症に対応する経済対策

- ・「新型コロナウイルス特別資金」等による資金繰り支援・レシ活チャレンジ（市内飲食店支援）（令和4年度）
- ・横浜市レシ活 VALUE（市民・市内事業者支援）の実施（令和4年度）
＜利用者数：約 108.3 万人、消費額：775 億円（令和4・5年度延べ数）＞
- ・「Find Your YOKOHAMA キャンペーン」（国内最大級の旅行予約サイトと連携した割引クーポンの配布）（令和4年度）
＜配布数：70,564 件＞
- ・商店街振興として横浜市商店街プレミアム付商品券支援事業、商店街にぎわい促進事業等
＜商品券総利用額：32.2 億円、商店街支援数：500 団体＞

【にぎわい創出の取組】

○観光・スポーツ振興の取組

- ・ポケモン WCS2023 横浜みなとみらいイベント（令和5年8月）、プリキュア 20 周年記念事業（令和5年9月～令和6年1月）実施
＜IP コンテンツ連携件数：54 件＞
- ・世界トライアスロン横浜大会及び横浜マラソン開催
＜トライアスロン横浜大会観戦者数：約 139 万人、横浜マラソン沿道応援者数：約 175 万人＞
- ・都心臨海部の水際線のにぎわい創出に向けた、山下公園通りでの歩行者天国を実施（令和5年度～令和7年度）
＜集客人数：約 84 万人（ワールドフェスタ・ヨコハマ含む。）＞
- ・横浜市観光・M I C E 戦略の策定（令和5年度）＜観光消費額：5,077 億円、観光入込客数：3,915 万人（令和7年）【過去最高】＞
- ・クルーズ船の受入れの推進＜寄港数：209 回（令和7年）【過去最多】＞



©ABC-A・東映アニメーション

IP コンテンツとの連携
（全プリキュアパレード）



© Shugo TAKEMI/Japan Triathlon Media

世界トライアスロン横浜大会
の開催



横浜マラソンの開催



山下公園通りでの歩行者天国
の実施

テーマ 04 まちの魅力・ブランド力向上

計画期間（令和４年度～令和７年度）における取組

【まちの魅力向上の取組】

○都心臨海部の魅力向上の取組

- ・都心臨海部に集積する音楽施設や、民間イベントとの連携による「音楽のまち」の推進（『Live！横浜』開催）（令和６年度）
＜来場者数：約 25 万人（令和６年度）＞
- ・水際線まちづくりコンセプトプラン策定（令和７年度）
- ・関内・関外地区の活性化推進
- ・横浜文化体育館の再整備（令和４年度）＜横浜 BUNTAI 来館者数：約 87 万人（令和６・７年度）＞
- ・大通り公園リニューアルプラン策定（令和７年度）＜Park-PFI 事業者決定（１～３区）、工事設計（１～８区）＞
- ・山下ふ頭再開発の推進に向け、市民意見募集、意見交換会等の結果や、検討委員会からの答申をもとに取りまとめた「基本的な方向性」に対して、市民意見募集と市民検討会、民間事業者の方々へのサウンディング調査を実施し、「事業計画案」を作成
＜市民意見数：13,733 件、市民意見募集：３回、意見交換会：９回、市民検討会：５回＞
- ・横浜駅西口駅前広場の整備推進、きた西口鶴屋地区等の横浜駅周辺民間開発の推進、ステーションオアシス地区・東口基盤整備の検討（エキサイトよこはま２２の推進）

○安全・安心で快適な公園整備の推進

- ・遊具等の改修・更新の拡充＜公園整備数：249 園・530 基＞

○第９回アフリカ開発会議の開催

- ・ビジネス機会の創出や次世代育成の推進（令和５年～令和７年）
＜アフリカビジネスセミナーの開催数：11 回、参加者数：約 1,030 人、学生プロジェクト参加者数：約 100 人＞



Live！横浜の開催



水際線まちづくりコンセプトプラン策定



第９回 アフリカ開発会議開催

○インクルーシブなまちづくりの推進

- ・野毛山動物園・野毛山公園、中央図書館、多機能型拠点等の連携による「誰もが学び、楽しみ、交流し、理解しあえるインクルーシブなまちづくりの展開」(のげやまインクルーシブ構想の公表)(令和6年1月)
＜野毛山動物園来園者数：928,160人(令和6年4月～令和8年3月)、おやこフロア入館者数：85,694人＞
- ・障害の有無等に関わらず、誰もが利用できることを目指した遊具広場を市内で初めて小柴自然公園に設置(令和6年度)
＜利用者数：431人(1日平均)(令和5年11月～令和6年2月 うち9日間調査)＞
- ・医療的ケア児等の受入環境整備(「医療的ケア児サポート保育園」)再掲＜認定数：34園＞

【ブランド力向上の取組】

○シティプロモーションの推進

- ・(公財)横浜市観光協会の『登録DMO』としての登録(令和4年度)
- ・(公財)横浜市観光協会に地域連携を推進するためのマーケティング専門部署を設置(令和6年度)
- ・子育て世代をメインターゲットに横浜暮らしの魅力を伝える「横浜移住サイト」開設(令和5年度)＜サイトアクセス数：199万回＞
- ・子育てしたいまちブランドブックの発行＜発行部数：約62.5万部＞
- ・横浜の魅力発信＜住みたい街ランキング2026(首都圏版)(株式会社リクルート)9年連続第1位、「日本新三大夜景都市」として選出【首都圏初】(令和6年度)＞

○都市農業の推進

- ・「横浜農場」の展開による地産地消の推進(企業等と連携した地産地消の展開)＜企業連携数：61件＞
- ・活力ある農業経営につながる新規就農者・後継者等の設備導入に対する支援の推進＜支援実施数：208件＞



小柴自然公園の様子



のげやま動物園リニューアル第一弾



横浜移住サイトの開設



「日本新三大夜景都市」として選出

計画期間（令和4年度～令和7年度）における取組

【脱炭素化の取組】

○横浜グリーンエキスポの開催を契機とした行動変容の取組

- ・横浜グリーンエキスポの開催に向けた機運醸成と基盤整備工事着手
- ・新たなグリーン社会の実現に向けた取組（ヨコハマ未来創造会議の立ち上げ（令和5年度））
＜若者による活動発信イベント参加者数：約1,000名（令和5年度～令和7年度）＞
- ・新たなグリーン社会の実現に向けた取組（地球1個分で暮らそう STYLE100の立ち上げ（令和6年度））
＜STYLE100 発信件数：50件（令和6・7年度）＞



横浜グリーンエキスポ開催に向けた機運醸成

○Zero Carbon Yokohama の推進

- ・ごみ焼却工場で創出した環境にやさしいエネルギーの市内活用 100%
- ・脱炭素先行地域として、みなとみらい21地区が選定（令和4年度）
- ・みなとみらい21地区の公道上に超急速EVトラック対応充電ステーションの設置【全国初】（令和5年度）
- ・エコハマ（横浜市エコ家電応援キャンペーン）実施（令和5・6年度）＜CO₂削減量：約8,000トン＞
- ・ペットボトルの「ボトル to ボトル」リサイクル（令和6年度）＜回収量：約90トン（令和7年度）＞
- ・横浜脱炭素イノベーション協議会の設立（令和5年度）
- ・公共施設への太陽光発電設備の導入拡大
＜導入箇所：397箇所（令和7年3月31日時点）、導入率：令和4年度末40% → 令和6年度末49%＞
- ・市営地下鉄の運行における実質CO₂排出量削減＜令和7年度排出量：0トン＞



ペットボトルの「ボトル to ボトル」リサイクル

○カーボンニュートラルポートの形成

- ・グリーンメタノール利用促進に向けた民間事業者との覚書の締結（令和5年度）
- ・メタノールバンカリングシミュレーション実施（令和6年度）
- ・横浜市の働きかけで始まった国土交通省「メタノールバンカリング拠点のあり方検討会とりまとめ」を公表（令和6年度）
- ・びょう地[※]でのメタノールバンカリング実施【日本初】（令和7年度）

○脱炭素の取組の国際展開

- ・国際会議等への参加の推進＜参加件数：53件＞

○下水再生リンによる肥料製造開始

- ・全量肥料利用の推進＜再生リン生産量：14トン＞

※船がいかりを下ろして安全に停泊するための水域

【安全・安心の取組】

○地震対策の推進

- ・横浜市地震防災戦略の改定（令和 6 年度）
- ・旧上瀬谷通信施設地区に「広域防災拠点」整備に向け着手【本市初】（令和 7 年度）
- ・木造密集市街地における延焼防止対策等の推進（感震ブレーカー・家具転倒防止器具全額補助開始、崖地の安全対策等）
＜延焼防止対策（建築物不燃化推進事業補助）実施件数：除却 825 件、新築 473 件、感震ブレーカー補助件数：10,327 件、家具転倒防止器具補助数：1,311 件＞
- ・妊産婦・乳児のための「母子専用型福祉避難所」の確保（令和 7 年度）

○風水害対策の推進

- ・災害情報伝達・普及啓発（浸水ハザードマップの配布、マイ・タイムラインの作成支援）（令和 4 年度）
＜配布数：約 153 万件（市内各世帯・各事業所）、マイ・タイムライン作成支援件数：3,509 件＞
- ・時間降雨量 60mm に対応した河川改修工事の開始（令和 5 年度）＜対象工事数：3 件＞

○消防力の強化

- ・消防本部庁舎等整備完了（令和 6 年度）
- ・消防訓練センター訓練施設の更新整備工事着手（令和 7 年度）
- ・よこはま防災 e-パークを活用した防災啓発の推進（令和 5 年度）＜アクセス数：約 250 万件＞
- ・救急隊の増隊等＜救急隊数：90 隊（令和 7 年度）＞
- ・消防団活動に伴う報告事務等のデジタル化の推進＜対応率：100%（令和 7 年度）＞



感震ブレーカー設置補助



よこはま防災 e-パーク

【交通環境向上の取組】

○道路利用環境の整備

- ・交通渋滞解消の取組（都市計画道路整備事業）＜市内の主要渋滞箇所：129 箇所 → 118 箇所＞

○鉄道利用環境の整備

- ・神奈川東部方面線整備事業（相鉄・東急直通線開通（令和 5 年 3 月））＜二俣川-目黒間所要時間：約 54 分 → 約 38 分＞
- ・市営地下鉄の駅改良工事＜着手数：設計 2 駅（上永谷駅、戸塚駅）、完了数：工事 2 駅（上大岡駅、新横浜駅）＞

持続可能な市政運営に向けた取組

計画期間（令和4年度～7年度）における取組

【持続可能な市政運営に向けた取組】

- 市政の礎となる「3つの市政方針」として、「横浜市の持続的な発展に向けた財政ビジョン」、「横浜市中期計画 2022-2025」、「行政運営の基本方針」の策定（令和4年度）
- 「3つの市政方針」に基づく取組への着手「創造・転換」の推進
 - ・現役世代はもとより、こどもたちや将来の市民のための持続可能な市政運営の実現に向けた行政サービスの最適化
 - ・収支不足額の解消や必要な施策・事業のための財源創出（毎年度の予算編成にあわせ、「歳出改革基本方針」を通知・徹底）
 - ・減債基金の臨時的活用からの脱却（令和12年度まで）に向けた取組
 - ＜計画期間中の財源創出額：645億円※（令和4年度から令和7年度予算編成までの総額）＞
 - ※うち「創造・転換」による財源創出額：186億円
- データに基づく市政運営の推進
 - ・現政策経営・国際戦略局にデータストラテジー担当を設置（令和5年度）、データ経営部を設置（令和6年度）
 - ・データドリブンプロジェクトの実施（令和6・7年度）
 - 中期計画にひもづく施策・事業を対象に、データに基づいて、施策の質の向上と、事業の創造・転換を検討
- 個人版ふるさと納税の確保
 - ・ふるさと納税総額 令和3年度：3.4億円 → 令和7年度：41.8億円
- 横浜市人材育成ビジョンの推進
 - ・横浜市人材育成ビジョンの改定（令和5年度）
 - ・新ビジョンを踏まえた研修・制度等の取組件数：199件（令和6年度からの累計）
- 市の将来を支える多様な人材の確保に向けた採用試験・選考の見直し
 - ・特別実施枠【SPI方式】の検討・実施、大学卒程度等採用試験【大学等推薦枠】の検討・実施
 - ・大学卒程度採用試験【春実施枠】及び社会人採用試験【春実施枠】の試験区分拡充
 - ・就職氷河期世代を対象とした採用試験の検討・準備、社会人採用試験【春実施枠】（事務区分）の採用時期の変更

【DX の推進】

○DX を通じた窓口の利便性の向上

- ・市民手続のオンライン化＜受付件数上位 100 手続のオンライン化率：100%＞
- ・ぴったりサービス（マイナポータル）の活用による 24 手続オンライン化
- ・モデル区（西区、港南区）における実証実験の実施（書かない窓口の推進）（令和 4 年度）＜試行実施数：22 件＞

○DX を通じた政策形成の取組

- ・オンライン上で意見募集を行う「デジタルプラットフォーム」を導入（令和 6 年度）
＜計画期間意見数：1,777 件 自主企画事業反映数：174 件＞
- ・創発・共創のプラットフォーム「YOKOHAMA Hack!」の立ち上げ・運営（令和 4 年度）
＜計画期間会員登録者数：1,099 人＞

○DX 推進に向けた基盤づくり

- ・DX 人材の確保と推進体制の構築：「デジタル人材確保・育成基本方針」の策定（令和 4 年度）デジタル職の採用
- ・DX 推進に向けた各種研修の実施
- ・庁内ネットワークの再整備（β'モデル移行）と場所を選ばないワークスタイルの実現（令和 4 年度）＜対応率：100%＞



横浜市の持続的な発展に向けた財政ビジョン



行政運営の基本方針



「創発・共創による課題解決プラットフォーム
「YOKOHAMA Hack!」」

3 市民インタビュー・有識者ヒアリングでのご意見

(1) 市民インタビューの実施

最終振り返りの実施に当たっては、中間振り返りと同様に、施策・事業の進捗状況等を踏まえ「中期計画全体」及び「基本戦略のテーマ」ごとに、市内在住の小学生から高齢者までの市民の皆様 69 名※に対してインタビューを実施しました。そして、寄せられたご意見は、「中期計画全体」及び「基本戦略のテーマ」ごとに掲載しました。

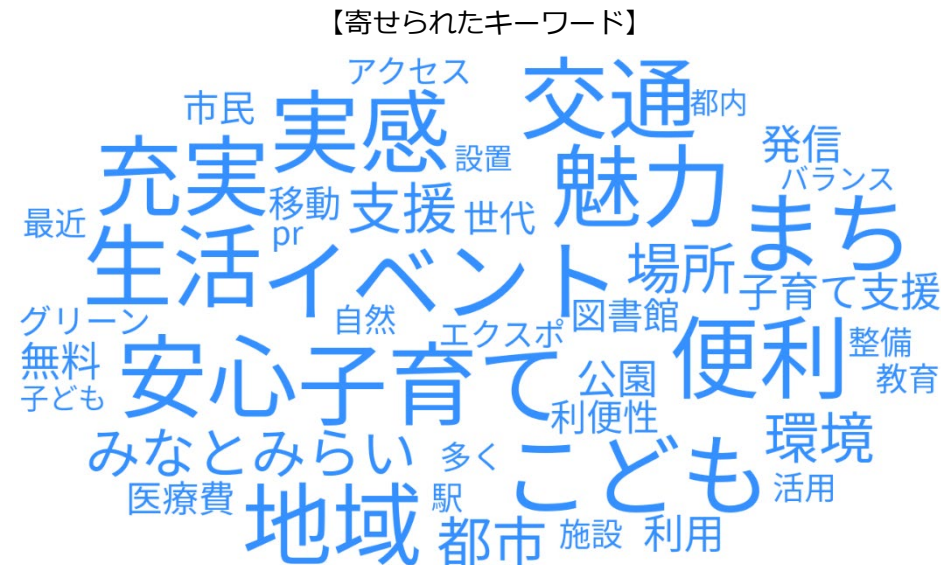
※ 居住エリア、年齢、性別等の属性を考慮し、偏りが生じないよう抽出（令和 8 年度調査費における民間調査会社の登録モニターより抽出）

【インタビューの様子】



(2) 市民インタビューで寄せられたご意見

インタビューで寄せられたご意見（266 件）を、AI を活用して分析し、キーワードを基にしたワードクラウド【名詞のみ・頻出順】の作成及び内容の要約を行いました。



※1 ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析

【寄せられたご意見の概要】

横浜市の中期計画に対して、市民からは全体として高い評価が寄せられた。とくに子育て支援では、小児医療費無償化の拡大、中学校給食、待機児童ゼロ、教育 DX や体育館空調整備などが安心感や負担軽減につながっているとの声が多い。一方で制度の周知不足や保育料負担軽減への要望もみられた。生活環境面では、交通利便性、治安、医療機関の充実、図書館や公園整備が評価された一方、防犯灯や道路、公園トイレの整備を求める意見もあった。経済・観光分野では、みなとみらいや再開発、イベント、企業誘致によるにぎわい創出を評価する声が多く、混雑対策や地域間格差への配慮も求められた。ブランド力では「横浜らしさ」や都市と自然の調和が魅力とされた一方で、全体を通じて施策の積極的な PR 強化を望む意見が目立った。

※2 Copilot による要約

①中期計画全体

- ・横浜に対して不満を感じていることはない。このまま取組をしっかりと進めてほしい。(60代・男性)
- ・大きな潮流としての東京一極集中は、簡単には是正されない。経済面で勝負するのではなく、横浜ならではの他の部分を充実させることに目を向ける必要があると思う。みなとみらいがここまで開発され、まちが大きく変わった。これぞ横浜というもの。ソフト、ハードの両面で横浜らしさを打ち出してほしい。(70代・男性)
- ・横浜は天に届くブランド感があると思っている。そのブランド力もアップデートして高めている感じがしている。(80代・男性)
- ・せっかくの取組が知られていない。PRをもっと実施すべき。分かりやすいように多くの人に届く広報を実施してほしい。(80代・男性)

②テーマ1 子育て世代への直接支援【戦略1】

- ・国語の授業で使うゲームが楽しい。(小学生)
- ・中学校にもエアコンがついているのはすごい。教育DXについては、自分は反対派だったが便利な部分を活用できるのであれば良いことだと思う。(10代・男性)
- ・医療費の18歳までの無償化や教育DXの推進など、様々な施策が大きく進んでいて驚いた。ただ、子育て当事者ではない学生・若者世代からすると、どうしても自分自身に直接利益やポイントが還元される施策の方に賛成したくなってしまう。(10代・女性)
- ・横浜市の施策について知らないことが多く驚いた。自分が高校生だった時に留学制度などがあったら使いたかった。(20代・女性)
- ・自分は、小児医療費無償化はぎりぎり対象ではなかった。この制度があることはうらやましい。(20代・女性)
- ・子育て施策を多く展開していることは良いこと。パマトコなどで利用できるサービス情報をもっと入手できると良い。(20代・女性)
- ・若い世代・子育て世代への支援はこれからも継続していくことが重要だと感じる。子育てしたいまちを進めることに賛同したいと思う。(20代・女性)
- ・AETが増えたのは良いこと。学校現場にタブレットが普及され、ちゃんと制度が整ったのだなと驚いた。教育の情報を知る機会があまりないので、すごく進化していると感じた。(20代・女性)
- ・タブレットやエアコンなど自分が小学生の時と全然違う環境になっていて驚く。タブレット学習については、保護者に対してどのように活用しているのか、もっと学校側から発信してくれると教育環境の向上を実感すると思う。(20代・女性)
- ・夏休み期間中のキッズクラブでの昼食提供がすごく助かっている。民間学童と併用しているが、値段も安く、友達と一緒にだと野菜や肉も何でも楽しく食べてくれるので食育の面でもありがたい。(30代・男性)
- ・出産までにかかる費用の自己負担がほとんどない。経済的支援が充実していることを実感している。(30代・男性)
- ・出産費用については、ニーズをよく見ているなと感じる。かかる費用についての実態をしっかり捉えて、我々が払っている税金から必要十分な金額を支援できており、素晴らしい。(30代・男性)

- ・こどもの医療費無料化はネットニュースで見た。これまで医療費がかかっていたが、なくなるのは親の負担軽減につながるので、大変ありがたい。(30代・男性)
- ・こどもの医療費無料化はすごく大きい。傷病は、予期しないところで発生するコストであり、想定していないコストを自治体が負担してくれるというのは大きな安心感につながる。(30代・男性)
- ・中学校給食が開始された。親はこどものために栄養バランスを考えながら、毎日メニューを考えて作っており、大変。バランスのとれたメニューが提供されるようになり良くなったと思う。親の負担軽減につながっている。(30代・男性)
- ・中学校給食は、こどもが自分自身では選ばないメニューも提供されるので、残す子もいるかもしれないが、食べられるものの幅を広げることで、食育にもつながるので良いと思う。(30代・男性)
- ・体育館の空調設備の設置は、こどもの教育環境の充実としての効果に加え、快適な避難生活を送れるので、どんどん進めてほしい。温暖化が進む中で安心できる。(30代・男性)
- ・東京都の子育て支援策が充実しているとして、こどもが生まれて都内に引っ越したという話をニュース等で聞くと、実際にはそこまで大きな差はないと思う。このように東京都との差が縮まると、わざわざ家賃の高い東京に行くメリットがなくなる。(30代・男性)
- ・今まではもっと子育て支援に力を入れてほしいと思っていたが、横浜市がこんなに力を入れていたのかと驚いた。(30代・男性)
- ・予算の制限もあると思うが、こどもの保育料無償化の範囲がもっと拡大すると経済的に助かる。(30代・男性)
- ・小学校給食費無料、個別支援学級が全校にあるなど、子育てのしやすさを感じる。(30代・女性)
- ・子育て支援が充実しており、こどもが体験できる機会が多い。動物園に気軽に行けるところが良い。(30代・女性)
- ・保育料無償化、預かり保育など、子育てにおいて必要不可欠なサービスの充実は本当にありがたい。とくに、小児医療費無償化の対象年齢の引き上げについてはとても助かっている。(30代・女性)
- ・朝の居場所づくりはモデル事業とのことだが、私たちの学校にあったらぜひ使わせてもらいたい。(30代・女性)
- ・放課後キッズクラブにこどもを預けているがお弁当が始まって嬉しい。こどもに人気のあるメニューに改善してくれるとさらに良い。(30代・女性)
- ・体育館にエアコンがついて良かった。(30代・女性)
- ・タブレットを宿題用に持って帰ってくるが、21時までしか使えず仕事などの関係で間に合わない。時間規制を緩和してくれると嬉しい。(30代・女性)
- ・こどもを育てる意識が高いまちだと感じている。(40代・男性)
- ・小児医療費無償化が18歳まで拡大されたインパクトは大きい。上の子が中学生でそろそろ高校を意識する年齢なので、3年間の延長はありがたい。娘が階段で歯を折った際、初めての歯医者さんがちょうど無料の範囲内で、定期クリーニングも含め3ヶ月に1回無料で診てもらっている。安心してこどもを育てることができると思う。(40代・男性)

- ・高校2年生の子が中学までは医療費補助を受けていたが、高1になったタイミングで補助がなくなり、いったんは実費負担を実感した。ただ今年から高校生まで対象が広がり、アトピーで定期的に皮膚科に通う子にとって、経済的にも心理的にも通院のハードルが下がった。(40代・男性)
- ・小学校給食の給食費無料、小児医療費無料はインパクトが大きく、子育て世帯全員が喜んでいると思う。(40代・男性)
- ・中学校の給食問題がようやく解消され、子育てが楽になった。交通アクセスの良さもあり、子育て世代におすすめしやすくなった。(40代・男性)
- ・通学路には交通量が多い地域などまだまだ危ない箇所がある。歩車分離、場合によっては車に対する速度規制など今以上に行っても良いと思う。(40代・男性)
- ・パマトコを活用している。すごく便利。横浜市が子育て支援に力を入れていることを実感している。(40代・男性)
- ・子育てを行っている身として、東京都の子育て支援策と横浜市の子育て支援策を比べるが、この数年で横浜は追いついてきている実感がある。もっとアピールすべきだと思う。(40代・男性)
- ・子育て支援策が充実してきていることは素直にありがたい。東京で、小学校での待機児童の報道がされていることを見かけるが、横浜は放課後キッズクラブで預かってくれることに非常に助けられた。(40代・男性)
- ・中学校給食には助かっている。親が体調不良になると、弁当を作るのも厳しい。そういった不安がないことはありがたい。(40代・男性)
- ・首都圏で、学校の建て替えの時期が来ている。単なる建て替えではなく、複合施設化が進むことで、より良いものになると思う。とくに豊岡地区の施設に期待している。(40代・男性)
- ・グローバル教育について、社会で活躍できる人材の確保に向けて推進していくことが重要。モデル事業だけでなく、全校に広げていってほしい。(40代・男性)
- ・市がこれからも発展するためには若い人口をいかに増やすかの一択。子育て支援・今いるこどもたちの支援のためにお金をかけるのは大切。(40代・男性)
- ・こどもを育てるのにはお金がかかる。市としては優先して予算を投下していいと思う。お金をかけられたこどもは、横浜の環境が素晴らしかったと愛着を感じるので、就職などのタイミングで戻ってきてくれるのではないかな。こどもの頃に感じる気持ちを大切にすると良いと思う。(40代・男性)
- ・こども食堂など、市も関与してこどもがいつでも安心してご飯を食べられる環境、居場所がもっとあると安心すると思う。(40代・男性)
- ・体調が悪くなった時にすぐ病院に連れて行けるのはとても安心。(40代・女性)
- ・エレベーターやタブレットなど、教育環境の進化を感じる。こどもがこれから進学するので楽しみ。(40代・女性)
- ・美味しさについて意見があることは聞いたことがあるが、そもそも中学校給食があるということがとても助かる。(40代・女性)
- ・「すぐー」など最近始まった教育環境の整備について、もっと早くあったら良かったのにとうらやましい。今の環境ならまた子育てをしたいなと思える。こどもたちには子育てをする際には横浜市をすすめられる。(40代・女性)

- ・子育て支援が手厚くてありがたい。暮らしやすくないと不満がある人もいるようだが、自分が希望する保育園に入れていないだけではないかと思う。他は充実しているまちだと思う。キッズクラブのお弁当もおいしいし、小児医療費無料もありがたい。(40代・女性)
- ・いろいろ支援があるのは助かっているが、市立の幼稚園がないのは不思議。(40代・女性)
- ・朝の居場所づくりはそもそも制度の周知や目的を発信したらもっと利用されると思う。登校班など縛りがあると思うが、学校と共に保護者の負担軽減を考えてもらわないとせっかく良い制度なのに利用することができないと思う。(40代・女性)
- ・こどもを見守ってくれている人が多くいて、安心感がある。家の裏の公園にこどもだけで遊びに行っても近所の人が見ていてくれるし、知らない人でも通りすがりに声をかけてくれる。(40代・女性)
- ・こどもがプレイパークをすごく楽しんでいる。近所にあり、無料なのが助かる。(40代・女性)
- ・預けやすさに力を入れてくれていて助かるが、幼稚園によって短時間預かりの値段や利用基準が違う。この基準が一定だとより利用しやすくなると思う。(40代・女性)
- ・学校配付のタブレットで、こども同士がマット運動を撮り合った映像を家で見られるのがすごくいい。(40代・女性)
- ・タブレットを生徒同士で授業の振り返りなどに使っていて、良い使い方だと思う。考える力が高まると思う。(50代・男性)
- ・この数年で子育て支援の取組が大きく前進したことを感じている。子育て支援に力を入れて、こどもを安心して育てられるような社会にしてほしい。(60代・男性)
- ・保育園が充実し、子育て施策の充実もあり、最近ファミリー層が増えた。まちに活気が出ているのを実感している。(60代・女性)
- ・子育て支援のボランティアをやっている。子育てボランティアなど、横浜にしかない様々な取組を進めていることを実感している。区役所職員が頑張っていることを実感している。(70代・男性)
- ・小中学校の体育館へのエアコン設置は重要な取組。地球温暖化が進む中で、避難所や選挙の投票所としても活用している場所へのエアコン設置は助かる。(70代・男性)
- ・自分のこどもの子育てをみていると夜中に熱を出すことがあるが、桜木町の夜間急病センターなど、頼れるところがある。これは、安心感につながる。(80代・男性)
- ・待機児童がゼロになっていることはすばらしい。これまででは考えられないし、東京都や近隣都市ではなかなかこの実績は出せない。(80代・男性)
- ・孫が生まれた時にこどもから聞いたが、出産費用助成はありがたかったとのこと。昔では考えられないくらい、直接的な支援が充実していると感じる。(80代・男性)

③テーマ2 コミュニティ・生活環境づくり【戦略1】【戦略2】【戦略5】【戦略7】

- ・治安に不安がある場所、まちが整備されてきれいな場所がそれぞれある。どのような場所でも人は住んでいるので、治安の向上に取り組んでほしい。(10代・男性)
- ・電車でどこへでも行けるのが魅力的。外に出ればスーパー・コンビニ・大型商業施設などがすぐあるので便利。(10代・女性)
- ・他都市に住んでいたが、横浜は便利すぎて他の都市に引っ越すことが考えられない。(20代・男性)
- ・野毛山図書館等をよく利用する。市全体で図書館整備を進めてくれていてありがたい。また野毛山動物園の改修・リニューアルも良い取組だと思う。市内外問わず人が足を運ぶきっかけにつながっていくと良い。(20代・男性)
- ・近隣市で働いているが、夜中には騒いでいる人がいるなど治安の面で不安。横浜では、治安の良さや静かさを実感している。(20代・男性)
- ・医療の充実を実感している。近隣にクリニックが多くあり、曜日を問わず診察に行くことができる。(20代・男性)
- ・みなとみらいをランニングする。景色に飽きない。夜も明るくて安全に走りやすい。(20代・男性)
- ・ベイスターズやマリノス等のスポーツチームと市が連携して盛り上げている。多くの人が集まってにぎわいが生まれている。こういった取組をもっと進めてほしい。(20代・男性)
- ・市内でもにぎわっているところ、緑が多いところ等自分の好みに合わせて選べるのが良い。(20代・女性)
- ・防犯灯が最近 LED になり、明るくなってきていて嬉しい。昔は暗い道を走って通っていた。まだ生活するうえで暗い場所もあると思うので、引き続き取り組んでいってほしい。(20代・女性)
- ・水際線はきれいだが、川が汚いと感じることがある。河川的环境にも取り組んでほしい。(20代・女性)
- ・住みやすく人にすすめたいまちであるが、イベント時など人が増えすぎるとつらい。際限なくにぎわいを求めるのではなく、住んでいる人の気持ちとのバランスが大事だと思う。(20代・女性)
- ・道路でタバコを吸っている人がいると嫌な気持ちになる。公園は禁煙化したが、吸ってはいけない場所、吸って良い場所を明確にし、嫌な思いをすることがないような政策を進めてほしい。(20代・女性)
- ・公園でタバコが禁煙化になったが、公園の外で車を止めて吸っていたりするのが目立つので、市民に対してもっと啓発してほしい。(20代・女性)
- ・新横浜駅前に図書館が新しくできるのが待ち遠しい。今でも独自の取組で行っている場所もあるが、町内会規模で公民館・コミュニティハウス等に本を置いて読めるようにしてもらえるととても嬉しい。(30代・男性)
- ・利便性という面では東京とあまり変わらないと感じるが、イベント性や街並みのきれいさ、都筑区などの公園・自然がある新しい雰囲気は東京より良いと思う。(30代・男性)
- ・他都市に住んでいた時、夜に車の音や大きな声が聞こえる等うるさかったが、横浜市は夜が静かで、治安も良い。(30代・男性)
- ・治安が良い。暴走族などを見ることもなく、安心して生活できる。(30代・男性)

- ・住宅街に防犯灯が増えてきており、明るくなっていることを実感している。一方で、まだ暗い場所もある。そういったところでは、防犯灯の間隔が空いているイメージがあるので、もっと設置を進めてほしい。(30代・男性)
- ・横浜に引っ越してくるまではスポーツに興味なかったが、身近なところにスタジアム等の施設があり、興味を持った。生活とスポーツの距離が近いところを魅力と感じている。(30代・男性)
- ・横浜市は1区あたりに1図書館だが、図書の取次拠点やブックカフェができてより充実すると聞いていて期待している。(30代・女性)
- ・自然や公園が多いと感じる。犬の散歩ルートに公園が5、6つあり、水分補給もできるし、時計も見ることができて便利。(30代・女性)
- ・こどもの幼稚園の目の前に畑があり、毎週イベントがあるのが良かった。小学校にはハーフの子や中国人の子など外国にルーツを持つ子が3分の1ほどいて、小さい頃から当たり前のように触れ合える環境があり、外国人が当たり前に共生する雰囲気が良いと感じている。(30代・女性)
- ・中央図書館がきれいになって嬉しい。こども図書館もあり、こどもと一緒にでかけるきっかけになっている。土日などはすごくにぎわっている。(30代・女性)
- ・道路が狭いと感じる場所があり、不安。歩行者が安心して歩くことができるまちを市全体で進めてほしい。(30代・女性)
- ・歩道が狭く、こどもやシニア世代は安心に通ることができない箇所がある。歩行空間整備が進めば、安心して生活できるまちになると思う。(30代・女性)
- ・関西だと車がないと移動できないが、横浜は交通機関でどこにでも行けて、便利なのに東京ほど人が多くないというところも良い。(40代・男性)
- ・公園にトイレが少ないと感じる。管理上の課題もあると思うが、防災の面で考えただけでももっと必要ではないか。また、こどもと親と一緒に利用できるトイレを標準にすると良いと思う。(40代・男性)
- ・坂が多い地域や道路が狭い地域があるのは仕方がないが、地域交通の導入などで公共交通がない地域でも移動がしやすくなると嬉しい。(40代・男性)
- ・交通利便性、生活利便性が高い。わざわざ東京までいかなくても、生活ができる。環境も東京より良いので、横浜は生活しやすいまちだと実感している。(40代・男性)
- ・生活圏の中にクリニックが多くある。大きな病院も近くにあり、安心して生活できる。(40代・男性)
- ・交通空白地が多い地域だと今後生活しづらくなるのではないかと心配。今後、地域交通の取組をしっかりと進めてほしい。(40代・男性)
- ・病院にすぐに行ける環境なので安心して暮らすことができています。(40代・女性)
- ・新型コロナウイルス感染症拡大の時に、ワクチンに力を入れて取り組んでくれたことは安心につながった。(40代・女性)
- ・引っ越してきた時に、防犯カメラが多くて安心だと感じた。(40代・女性)
- ・歩道や公園の整備が進んでいることは実感するが、犬のふんなど、利用者のマナー向上に向けた発信も禁煙などと合わせて発信してほしい。(40代・女性)

- ・こども 100 当番の家を利用するハードルはこどもにとって高い気がする。知らない人の家に助けを求めるより周囲の人に助けを求めるほうが現実的。機能させるのであれば、地域でもっと顔が見える関係を構築していくことが求められる。(40 代・女性)
- ・以前住んでいたところは駅までバスか車かでしか行けず不便だったが、今は駅まで歩いて行けるところに住んでいる。市内でも地域によってアクセスの良さは差があると思う。(40 代・女性)
- ・中区は家族で住むには向いていないかもしれないが、独身にはにぎわっていて楽しい、青葉区は華やかではないがまとまった緑があり住みやすい。横浜はバランスがとれた都市だと思う。青葉区も田舎だが、交通の便が良いし、子育て・学習面で前向きだと感じる。それぞれの家庭の状況に応じた選択肢があるまちだと思う。(50 代・男性)
- ・犯罪の件数が減っているように感じている。最近、横浜での犯罪についての報道を聞くことがない。(50 代・男性)
- ・新型コロナウイルス感染症のワクチンの接種推進はありがたかった。スピード感のある接種体制の構築に安心できた。(50 代・男性)
- ・がん検診を 65 歳で無料で受けられるということは大変魅力的。医療機関で働いている身としては無料であることの重要性を感じている。(50 代・男性)
- ・認知症の検査拡大は、いい取組。できるだけ初期に発見することで進行を遅らせることができる。これは、横浜だけでなく、国全体で実施すべき。もっと、横浜市として PR していった方がよい。(50 代・男性)
- ・防犯灯が設置され夜明るくなるなど、まちが整備されてきている。防犯対策もしっかりしており、安心感を実感している。(60 代・男性)
- ・病院の数は安心につながっている。また、家族が介護施設に入所する際に、想像より待つことなく入ることができ、年をとっても住みやすいまちだと思う。(60 代・男性)
- ・病院や介護施設など、他の市内地域と比べてあまりない地域に住んでいるので心配。地域の世代が変化する中で、子育てに注力した施策から高齢者向けの施策も増えるともっと安心して暮らせる。(60 代・男性)
- ・都心臨海部は本当に便利。市内の緑が多い郊外部分もコンセプトをもって開発してほしい。(60 代・男性)
- ・図書館がとても便利。ほかの図書館の本を予約して、郊外部の図書館で受け取れる。返却はどこでも良い。戸塚図書館のリニューアルの時も、本が借りられるように窓口を作ってくれて良かった。益々本に触れる機会が充実していくと思うと、市民としてとてもありがたい。(60 代・男性)
- ・敬老パスはすごく便利だと思う。財政への圧迫が心配で、自分がもらう頃には制度として無くなってしまうのではないかと。有料にしても良いので続けてほしい。(60 代・男性)
- ・大きな病気をした時に、かかりつけ医と市民病院の連携がしっかりしていたことがありがたかった。加えて、市内の移動も楽だった。(60 代・男性)。
- ・多くの人が東京都と横浜を比較する。私は、安心で安全だから横浜に住み続けたいと考えている。(60 代・男性)
- ・ごみの回収が有料の都市がある中で、横浜は無料でありがたい。(60 代・女性)
- ・子育て支援の充実だけでなく、がん検診等の子育て世代以外に向けた支援が充実してきたことについて、ありがたい。(60 代・女性)

- ・ 駅周辺にスーパーが多くある。また、クリニック等もたくさんあり、自分の生活圏の中で様々なことが解決でき便利であると感じている。(60代・女性)
- ・ 電柱がなく、防犯灯を設置できなかったエリアに新しく柱を立てて、防犯灯が設置された。明るくなったので大変ありがたい。(60代・女性)
- ・ 戸塚図書館のリニューアルが素晴らしかった。座席の数も増えており大変良い。(60代・女性)
- ・ 敬老パスがあることが素晴らしい。大変期待している。これを使って様々なところに出かけることができる。健康が維持できるのではないかと思う。(60代・女性)
- ・ 空き家が増えてきていることが心配。管理が不十分で、害獣が入り込んだりしている。(70代・男性)
- ・ 少子高齢化の影響は大きく、コミュニティの維持は困難。担い手も不足していることに不安を感じている。(70代・男性)
- ・ 国際色も豊かでありながら、フレンドリーに過ごすことができる。このような都市はあまりないと思う。(70代・男性)
- ・ 敬老パスはありがたい。高齢者になると生産活動で貢献が難しいが、高齢者は消費活動で経済に寄与できる。(70代・男性)
- ・ お悔み窓口は利用して良かった。待ち時間がなく、親切だった。存在を知ったのは、葬儀屋さんから。いい取組なので、PRをもっとしてほしい。高齢者増える中で、亡くなる方も増えると思う。突然のことで気持ちの整理もついていないのに、手続きはいろいろとしないといけないので、こういうワンストップの窓口があるとありがたい。(70代・女性)
- ・ 横浜はインターナショナルな魅力がある。様々な国籍の料理を手ごろに味わえる。国際性を感じさせながら、カジュアルに味わえる。(70代・女性)
- ・ 最近、駅周辺の徒歩圏内にスーパーが集積しており、買い物できる場所が多くなっている。(70代・女性)
- ・ 横浜マラソンは市民も参加できる大きなイベント。市の観光資源をイベントを通じて市外の人にも知ってもらえるのは良いことだと思う。(80代・男性)

④テーマ3 生産年齢人口流入による経済活性化【戦略4、戦略5、戦略9】

- ・横浜マラソンに参加することが楽しかった。また参加したい。(小学生)
- ・街の再開発効果を実感しており、とくに東急新横浜線の「新綱島駅」周辺の再開発では大きな恩恵を受けている。以前は地味な印象があったエリアが非常にきれいになり、居心地が良くなったと感じる。(10代・男性)
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で飲食店がつぶれてしまうことが多いと感じていたが、レシ活等かなりの支援をしていたのだなとうれしく思う。(10代・男性)
- ・クルーズ船は来るだけでそのエリアが盛り上がる。引き続き力を入れてほしい。(10代・男性)
- ・みなとみらい地域に多くのライブ会場ができたこと、さらにそれがしっかり稼働していることがにぎわいにつながっていることを実感している。(20代・男性)
- ・アルバイトの賃金が都内と変わらない給与水準なのが魅力的。(20代・男性)
- ・徒歩圏内に何でもある。高齢になった時にも歩いていける距離にいろいろあるので住み続けたい。(20代・女性)
- ・交通の便は良いが、関内エリアなどいつでも満員。利便性と隣り合わせなので仕方がないが、せめてイベント時くらいは人流をコントロールするなどにぎわい創出の取組と合わせて実施してほしい。(20代・女性)
- ・ライブ等ができる大規模会場が増えたので嬉しいが、イベント時は家に帰るので苦勞する。イベント会場とバスをつなぐなどできたら、歩行者が広がることなく、近隣の方もイベント参加者も満足するのではないか。(20代・女性)
- ・生活コスト（買い物、家賃等）が都内に比べて抑えられる。近所に商店街があり、買い物もしやすく、バランスの良い都市であることを実感している。(30代・男性)
- ・自分の勤めている会社もみなとみらいに移転した。みなとみらいで働いている身として、様々な会社が集まってきていることを実感している。(30代・男性)
- ・みなとみらいで、IPコンテンツを利用したイベントが多く行われている。他都市からもたくさんの人が来ており、にぎわいの創出につながっている。(30代・男性)
- ・横浜のウォーターフロントは東京と比べてコンパクトで見やすい。フリーパスなどの交通手段の割引と合わせて、素晴らしい横浜の港町をもっとPRしてはどうか。(30代・男性)
- ・イベント会場が増えて人が増えるのは嬉しいが、こども目線、住んでいる身としてはイベント会場隣接の混雑が少し気になる。交通導線や人流のコントロールなど合わせて進めてほしい。(30代・女性)
- ・住んでいる地域に農園があり、こどもと一緒に気軽に農体験をすることができる。これも横浜の魅力だと感じる。農地、緑地、公園が近くに多くあると感じている。(30代・女性)
- ・IPコンテンツの映画の舞台に多くなっており、様々なシチュエーションで横浜というまちをアピールすることに頑張っているなと思う。(30代・女性)

- ・「ザ よこはまパレード」は年々盛り上がってきていると思う。(30代・女性)
- ・IPコンテンツで子供が好きなキャラクターのイベントをやっていて親子ともどもとても盛り上がった。(30代・女性)
- ・スーパー等が身近にあり、日頃の買い物しやすい。生活しやすい環境を実感している。(30代・女性)
- ・みなとみらいでのイベントが多く実施されていることはすごくいいこと。多くの方に横浜市を知ってもらいファンになってもらえると思う。さらに、開催場所をみなとみらいから拡大していくと横浜のことをもっと知ってもらえるので、よりいいと思う。(30代・女性)
- ・横浜グリーンエクスポ、その後のテーマパーク構想などが楽しみ。開発を楽しみにしながら住み続けたいと思う。(30代・女性)
- ・こどもと一緒に参加した横浜マラソンでメダルをもらった。こどもも楽しめたようでいい企画だと思う。多くの人たちに沿道から応援してもらえたのも嬉しかった。今年も参加する予定。(40代・男性)
- ・企業への伴走型支援で市から補助金が出ていることは、中小企業を支え、雇用者を守るという観点からありがたい。(40代・男性)
- ・働く場所があることはとても大切。働く企業がないと人口が増えず減ってしまう。(40代・男性)
- ・イベントの開催等で、みなとみらいのにぎわいを実感している。自分自身も楽しめており、日本国内でもトップクラスの魅力のある都市だと感じている。(40代・男性)
- ・みなとみらいへの企業誘致も進んでいて、まちが進化していることを実感している。(40代・男性)
- ・こどもが通学するのに、都内にも横浜駅にもアクセスが良く便利。(40代・女性)
- ・レシ活がとても助かった。中小企業支援的にも市民の生活的にも良い取組だったと思う。(40代・女性)
- ・横浜が舞台のアニメの周年イベントに合わせてファンの聖地巡礼が盛んだと聞いている。コンテンツが充実するのは嬉しい。(40代・女性)
- ・横浜は花火が多くてこどもと盛り上がっていた。最近は慣れて花火の特別感が薄れてきているので、ドローンショーなどのコンテンツも含めて、もっと盛り上げてほしい。(40代・女性)
- ・都心臨海部から離れれば離れるほど、イベントへの関心は薄くなるのではないか。中区に住んでいる時はよくイベントに参加していたが、市内郊外部に住むと自分から探さないと情報を得られず、イベント自体を知ることがなく終わっている。(50代・男性)
- ・地域交通支援の推進は大変重要な取組。高齢者は山坂があると歩くのがつらいし、買い物後に重い荷物をもって歩くのもきつい。民間と連携しながら、住民のニーズをしっかりとらえて進めていることを評価したい。(50代・男性)
- ・将来的に横浜にもっと企業が増えると働きやすいし、にぎわうので理想的なのではないか。派遣の仕事を探す時に東京で仕事をするのは移動が大変だが、横浜の仕事は取り合いですぐになくなる。企業誘致がもっと進めば次の世代が横浜に戻り、働き、住み続けるという選択肢を持てるのではないか。(50代・女性)
- ・高層の建物が少なく、空が高い。自然を感じられて住むのには魅力的な場所だと思う。(60代・男性)
- ・横浜には観光スポットがたくさんあるので、週末の楽しみが多くある。アップデートされていくので、飽きることもない。(60代・男性)

- ・経済活性化は東京が近くにあるため、難しい面もあると思う。神奈川県と横浜市が同じことをしているが、2か所で同じことをしているので小粒になりがち。横浜が音頭をとることで、神奈川県全体が良くなるのではないか。(60代・男性)
- ・横浜は東京のそばにあるため、横浜独自の経済圏を確立することに難しさがある。東京都と同じところを狙いに行くのではなく、東京ではできないが横浜ならできるという産業を引っ張ってこないといけない。考え続けていく必要がある。(60代・男性)
- ・臨港パークから山下公園の臨海部の回遊性が高くなったと思う。横浜は、シーサイドライン周辺も楽しめる場所がコンパクトに揃っている。(60代・男性)
- ・横浜の観光消費額が上がっていることは良いこと。一方で、もっと呼び込める余地があると思う。とくに海外からのインバウンドを呼び込むにあたって、案内サインの改良が必要だと思う。(60代・男性)
- ・IP コンテンツを活用したイベント等を開催することで、東京からも多くの人が集まっている。また、音楽施設も多く集まり、まちが活性化されて若返っているように感じている。面白いまちになって、ファミリー層だけでなく、若い人も多く集まっているように感じている。(60代・女性)
- ・横浜には山坂が多い。山手や港の見える丘公園等の魅力にもつながっているが、生活圏においては、小回りが利くようなバス等があると良い。(70代・男性)
- ・横浜は東京よりも物価は安いですが、県西に比べて物価が高い。しかしながら、生活コストを補って余りある利便性の高さがある。税金が高くなっても良いので、郊外部をもっと住みやすくする取組を進め、東京や県西エリアの都市との差別化を図ってほしい。(70代・男性)
- ・郊外部でも駅周辺に生活に必要な施設ができ、便利になってきていることを実感している。横浜グリーンエキスポを契機に横浜の郊外部を重点的に開発していってくれと嬉しい。(70代・男性)
- ・ファッションや食文化等、横浜でしか味わえないものが多い。そういった魅力を実感している。(70代・女性)
- ・港にクルーズ船が来ていると、これぞ横浜と、港町であることを実感する。一方で、クルーズ船の大型化が進んでいると聞いている。大黒ふ頭に接岸することもあり、バスで街中まで運搬していると聞いているが、クルーズ船で来た方々を横浜の消費につなげるための取組をもっと進めてほしい。(70代・女性)

⑤テーマ4 まちの魅力・ブランド力向上【戦略6、戦略7】

- ・港町の雰囲気が良い。(10代・男性)
- ・東京にあって横浜にないものがない。みなとみらいをはじめ、毎年アップデートが感じられ、飽きることがない。(20代・男性)
- ・住まいの近くに貸出農園があり、都会の横浜でもこういう緑や農地がある景色が見れるのかとうれしく思う。(10代・女性)
- ・みなとみらいが大好きで横浜に住むことを決めた。(20代・女性)
- ・ショッピングセンターが便利。生活区域に何でもあり、東京の友人に横浜はなんでもあるねと言われる。栄えている東京からしてもうらやましがられるのは誇り・自慢。(20代・女性)
- ・交通の利便性が高い。電車がたくさん通っているし、歩いて移動できる範囲も広いと感じる。みなとみらいなどは歩いている道中も楽しめるのが良い。(20代・女性)
- ・東京にも横浜に住みたいと思っている人が多くいる。東京勤務の人にとって、横浜市が遠いというイメージがあると思う。もっと、通勤時間がかからないことのアピールを実施すると良いと思う。(30代・男性)
- ・民間調査で、子育て世代の住みたいまちランキングで上位に入っていた。子育て支援も含めて都市の魅力を発信していくことで、横浜のプレゼンスが高まっていくと思う。(30代・男性)
- ・週末の楽しさと日常生活のバランスの良い都市であることを実感している。(30代・男性)
- ・みなとみらいなど町並みが良い。都筑区のニュータウンなど、きれいで公園もあり良い。(30代・男性)
- ・夜景がきれい。海が身近にあるのが魅力的。(30代・男性)
- ・在日米軍の存在も横浜のカルチャー、魅力の一部だと思う。(30代・男性)
- ・はまフェスは関内関外地区の活性化に貢献している。再開発とは違った魅力がある。(30代・男性)
- ・商業施設が整っていて買い物に便利。暮らしやすいを最も実感する要素。(30代・女性)
- ・サークルウォークにエスカレーターができて嬉しい。女神橋も開通して便利になった。歩いていて楽しい空間をこれからも整えていってほしい。(30代・女性)
- ・コンセプトをもってまちづくりを進めているのはすごく良いと思う。(30代・女性)
- ・駅近くに大型商業施設ができた。その周りには緑がしっかり残っていて、こどもが川遊びをしたり、ランニングをしたりしている。都市部と自然の要素があり、様々な経験ができることが良い。また、自然を通じて季節を感じることができたり、夏に涼めたりすることができている。(30代・女性)
- ・横浜と言えば県外からは大体みなとみらいや中華街をイメージするが、横浜はそれだけじゃないと、これまで違和感を感じていた。みなとみらいエリアは、対外的にアピールする施策、その他のエリアはより地元の人、住んでいる人、住みたいと思ってもらえるように重点を置いて取り組んでいくことが重要だと思う。(30代・女性)

- ・みなとみらいがあることで、海や港を身近に感じてリラックスすることができる。イベントも多くやっており、飽きることがない。(30代・女性)
- ・横浜は日本で一番ブランド力が高いと思う。住む人が横浜を好きになるというのも、横浜の魅力の一つだと思う。(40代・男性)
- ・横浜グリーンエクスポもあるので、これからは緑も魅力としてもっとアピールしていけると良い。(40代・男性)
- ・野毛山動物園は無料で魅力的。入場料が無料ということで、経営が厳しい部分も生じると想像するが、継続してほしい。(40代・男性)
- ・住居と繁華街がいい距離感で配置されており、暮らしやすい。東京に住んでいたが、両者が混在していることで落ち着いて暮らせなかった。(40代・男性)
- ・用途地域の変更は面白いし、重要な取組。生活の便利さは大変重要な要素。こういった取組を進めていくことは重要。(40代・男性)
- ・まちの開発にポリシーがあると感じる。文化を残しながら、町並みを壊さないように、もともとあるものを残しながらよくすることができる。旧市役所跡地の再開発なども街並みを残しながら進められている点が気に入っている。(40代・男性)
- ・サッカー・野球・バスケットなど、スポーツが盛んで、まちとしての盛り上がりを感じる。(40代・男性)
- ・横浜のまちの雰囲気が好きで横浜に住むことを決めた。(40代・男性)
- ・お店もイベントもたくさんある、こどもが喜ぶので保護者としても嬉しい。(40代・女性)
- ・横浜が好きなので、移住した。(40代・女性)
- ・みなとみらい周辺に比べ横浜駅周辺はこどもにやさしくないと感じる。イベントが多いわりにこども用のトイレが少ない。(40代・女性)
- ・臨海部のハンマーヘッドなど魅力的な施設が多い。今後もっとにぎわうと思うのでアクセスがよくなるといいなと思う。(40代・女性)
- ・横浜は海に近い。緑も豊かで、子育てしやすい環境であると感じている。(50代・男性)
- ・ここ3～4年で、公園がきれいになってきたと実感している。とくに遊具のメンテナンスや更新がしっかりされたこと、風で砂が舞わないようになっていることを評価したい。(60代・男性)
- ・ズーラシアなどの魅力的な施設に人が集まっている。ローカルな魅力をもっと発信していくといいと思う。(60代・男性)
- ・自然環境をしっかりと市が管理していると感じる。まとまった緑地があったり、市民の森があったり、横浜グリーンエクスポも開催される。都心に住んでいる人に緑が多いと褒められるのは嬉しい。緑もあるのは魅力で、おすすめしたい。(60代・男性)
- ・横浜市民が50%オフになるようなクルーズを実施している。港のある横浜ならではの取組で素晴らしいことだが、PRが足りていないように感じる。いい取組はどんどんアピールしてほしい。(60代・男性)
- ・横浜は都市でありながら、郊外部は自然が多い。こどもと散歩できて緑が沢山あるいいところであると感じている。(60代・男性)
- ・IPコンテンツを活用したイベントでみなとみらいがにぎわっている。イベントをやれるだけの広さがある場所が多くあり、まちづくりがうまくいっていることを実感している。(60代・男性)
- ・横浜市にある砂浜は金沢区の海の公園だけ。この魅力的な施設をアピールするとともに、アクセスの改善を図ることで魅力としてもっとアピールできると思う。(60代・男性)

- ・公園の数が多い。大きな緑もまちに多くあり、日常生活の彩りになることに加えて、災害時にも安心できると思う。(60代・女性)
- ・東京で住宅を購入しようとするすると1億円を超える。横浜では、都市部から郊外部にかけて金額や居住環境を選べるところが魅力的だと思う。(70代・男性)
- ・横浜に住みたいと思っている東京の人は多いと思う。横浜市が市民から集めた良いお店などを紹介するプラットフォームがあると対外的にPRになる。自治体のPR力を活かしてほしい。(80代・男性)
- ・横浜は上品なまちだと思う。東京のような混雑もなく、ゆったり過ごせる。横浜に住んでいることをうらやましがられる。(80代・男性)

⑥テーマ5 都市の持続可能性【戦略3、戦略8】

- ・どこかの路線が止まってもほかの路線で目的地へ行くことができるのは横浜の良さの一つと思う。(10代・男性)
- ・横浜グリーンエクスポの開催を楽しみにしている。ただし、具体的にどのような催しや体験が行われるのかが市民に伝わっていないため、周知・広報活動をもっと強化してほしい。(10代・女性)
- ・市内でいろんなことが解決するので住みやすい。万が一横浜で賄えなくても、他都市へのアクセスが良いので他でリカバリーすることもできる。(10代・男性)
- ・不要になった洋服を専用の回収ボックスに持ち込み、アプリでポイントがたまるサービスを利用している。脱炭素の取組に貢献できていると思うが、もっと回収場所を増やしてくれると嬉しい。(10代・女性)
- ・東京に通学しているが、交通の便が良く、災害が起きた時でも電車さえ動けば、1本で帰れるので便利。(20代・男性)
- ・横浜は電車が通っていない代わりに家賃が安い地域がある。交通網がより充実することで、暮らしやすさが高まってくると思う。(20代・男性)
- ・横浜グリーンエクスポが楽しみ。期待しています。(20代・女性)
- ・ハザードマップが分かりやすい。力を入れてくれているのだなと感じる。家族で考えるきっかけになった。(20代・女性)
- ・エコハムを利用してきて家計的にすごく助かった。脱炭素の取組に自分も寄与できたことも嬉しく思う。(20代・女性)
- ・母子専用型福祉避難所を使うのは、お年寄りがどうするか等、ほかの人の目が気になってしまう。コンセプトがあるのは良いが、あらゆる世代が納得して使える形にしてほしい。(20代・女性)
- ・鉄道は十分整っている。歩道が狭かったり、駅までの道が私有地で通れなかったりすることがあるので、歩行空間の整備は引き続き力を入れて取り組んでほしい。(30代・男性)
- ・長年住むためにはハザードマップのモニタリングが必要だと思う。ハザードマップに加え、これまでその地域でどのような災害が発生しているのか分かるようになっているとより防災意識が高まる。(30代・男性)
- ・市内・市外への移動が便利。通勤・通学・キャリアを選ぶうえでの選択肢が広く、可能性が広がると思う。(30代・男性)
- ・メタノールバンカリングを日本初でやったのはすごい。市としてもっと発信力を強めて外部から評価してもらえるようにしてほしい。(30代・男性)
- ・暮らしやすいと思う。都内への通勤の際に、都内居住に比べて移動時間はかかるが、都内への路線数が多く交通の便が良い。(30代・男性)
- ・日々のごみの分別を調べる時にアプリで検索をできるところが助かっている。粗大ごみを出す際にも、ネットで手続きができることなどはありがたい。将来の地球環境のためには、リサイクルできるものはリサイクルするなど、環境負荷の低減に取り組むことが重要。(30代・男性)
- ・ゲリラ豪雨があった時に、スマホで川の水位や気象警報の情報が確認できているところが安心につながっている。(30代・男性)

- ・相鉄・東急線の接続により通勤時間や遊びに行くためにかかる移動時間が片道で 30 分くらい減少し、利便性が大きく向上したことを実感している。(30 代・男性)
- ・緑が多く、富士山が見える等、自然が豊かでゆったり過ごせる。その中でも相鉄・東急線の直通などにより交通利便性が高まっている。自然と都市部のバランスの良い都市であることを実感している。(30 代・女性)
- ・長年、駅からほど遠いところに住んでいるが、何十年もスーパーがなかったが最近できた。交通渋滞もひどいことになっていたが、トンネルを作って渋滞を解消してくれた。もともと住み続ける予定だったが、さらに住みやすくなったと感じる。(30 代・女性)
- ・相鉄が東京につながったのは良いが、直通になったことでダイヤが乱れるのは困っている。(30 代・女性)
- ・せっかく横浜で万博が開催されるのだから、横浜グリーンエキスポには行ってみたい。(30 代・女性)
- ・自分の住む地域は歩道と自転車道が分かれていて良い。(30 代・女性)
- ・ペットの防災対策を 18 区同じような温度感でやっていただきたいと思う。鶴見区は熱心な住民がいるから年間通して開催できるが、緑区はそのようなものがないみたいなので行政が旗振り役としてやってもらえたら更に住みやすく横浜をもっと好きになると思う。(30 代・女性)
- ・東京へのアクセスが良く便利。(40 代・男性)
- ・持続可能性のインフラについて、生活に関わる上下水道やゴミ焼却場の更新計画などをもっと発信した方が市民の安心につながり、持続性が高い都市に感じると思う。(40 代・男性)
- ・相鉄・東急線の直通運転の開始等、交通環境が向上していることが素直にありがたい。移動時間の短縮を強く実感している。(40 代・男性)
- ・交通の便が非常に良い。東京のオフィス街にアクセスしやすいところを魅力と感じている。(40 代・男性)
- ・脱炭素の支援について、初期投資の支援もありがたいが、継続的な支援も必要になるのではないか。(40 代・男性)
- ・脱炭素化については、是非積極的に取り組んでほしい。グリーンエキスポについては、いろいろ懸念されていることがあるが、横浜市が脱炭素、ゼロカーボンに対して真剣に取り組んでいることを積極的に発信してほしい。(40 代・男性)
- ・親水公園が整備され、河川の氾濫がなくなった。ハザードマップも配布されるなど、施策が実施されている。これにより安心が実感できている。(40 代・男性)
- ・毎年学校のイベントで自分たちの授業を発表する機会があり、その中で環境をテーマにアップサイクルなど、実際に手を動かして学ぶ体験がある。地球温暖化や SDGs については、こどもより先に大人側が認識を新しくしていく必要があるのではとも感じるが、こどもがこういった体験をできることは良いこと。(40 代・女性)
- ・横浜グリーンエキスポについて、楽しみにしているのもっと情報を発信してほしい。(40 代・女性)
- ・東京に比べて給与の収入と支出のバランスが良いと思う。給与水準はあまり変わらないが、住居も生活費も安く便利に暮らせていると思う。(40 代・女性)

- ・防災、減災の取組に力を入れてくれているのは感じるが、台風の時の登下校の判断など、家庭の判断にすることなく、速やかに発信してくれると助かる。(40代・女性)
- ・川が近いのでハザードマップを家族で確認している。ありがたい。洪水が心配だが、ゲリラ豪雨対策などの河川改修を進めてくれているので安心。(40代・女性)
- ・交通利便性が高い。複数路線が使用できることで、不便を感じたことはない。一方で、バスの運行本数が減ってきていることは、少し懸念している。(50代・男性)
- ・海外がやっているような脱炭素の取組も世界の中の横浜として率先してやってほしい。(50代・女性)
- ・川が汚れているなど気になる時がある。川がきれいになる取組を行い、横浜が力を入れて取り組んでいることを発信すると都市としての魅力も高まると思う。(60代・男性)
- ・ごみ処理工場の熱蒸気をそのまま隣接の工場などに使用する仕組みをもっと活用すれば、よりエネルギー効率が良い取組として発信できると思う。(60代・男性)
- ・渋滞対策が進んでいることを実感している。これまで渋滞していたところが、支障なく通れるようになると、ありがたい。(60代・男性)
- ・ゲリラ豪雨の頻度は増えているが、水害の被害は以前に比べて減少しているように感じている。様々な取組の成果を実感している。(60代・男性)
- ・自転車が車道通行になったが、危なくて歩道を走るケースもあると思う。車の走る部分と自転車が走る部分、歩道を分けてくれると安心できる。(60代・女性)
- ・最近のバスの減便が心配。運転手の採用に苦労していると聞いている。(70代・男性)
- ・横浜のごみの出し方は整理されている。しっかりと分類していてごみの量が減少しているし、リサイクルがしっかりとできていると思う。(70代・男性)
- ・家からバス停まで坂がある。坂のある町なので、生活が厳しい。地域交通のバスの本数を増やしてほしい。(70代・女性)
- ・ごみの分別の周知徹底は本当に大変。この取組は市民の努力の上に成り立っているが、やはり目的の説明が不十分と感じる。横浜グリーンエクスポの開催を契機に環境負荷低減の意義をしっかりと周知する必要がある。(80代・男性)
- ・横浜は交通の便が良い。定年後に横浜市外に引っ越す話も出たが、便利さは重要と考え、今の場所に住み続けている。(80代・男性)

(3) 市民の皆様の暮らしの意識の状況

中期計画の最終振り返りに当たっては、指標の進捗状況だけでなく、市民の皆様の実感や意識を把握するため、市民インタビューを実施しました。さらに、市民生活・needs 調査により、横浜での暮らしに関する市民意識を数値化・可視化しました。この調査結果は、中期計画の検証に活用するとともに、「横浜市中期計画 2026-2029」において、各政策分野の成果を測る指標として位置付けています。今後も継続的なモニタリングを実施し、市民生活の更なる向上につなげていきます。

【中期計画の基本戦略の各テーマと市民実感の状況】

基本戦略のテーマ	
	テーマ 01 子育て世代への直接支援 誰もが安心して出産や育児ができるまち
	テーマ 02 コミュニティ・生活環境づくり 未来を育むつながり・自然・文化・学びに溢れるまち
	テーマ 03 生産年齢人口流入による経済活性化 住居・交通・仕事において便利で選ばれるまち
	テーマ 04 まちの魅力・ブランド力向上 いつまでも愛着を持って過ごせる魅力的なまち
	テーマ 05 都市の持続可能性 将来の世代にわたり安全・安心に暮らせるまち

暮らしの意識※(令和8年度)	
テーマ 01	子育てしやすいまち 61.0% 教育環境が充実しているまち 60.9%
テーマ 02	治安の良いまち 74.3% 居住地域が暮らしやすいまち 79.9% 安心して適切な医療が受けられるまち 82.3% 高齢者にとって暮らしやすいまち 48.3% 障害児・者にとって暮らしやすいまち 34.5%
テーマ 03	鉄道やバスなどの公共交通機関が便利なまち 79.0% 経済的な活力があるまち 58.6%
テーマ 04	観光やスポーツ文化によりにぎわい・活力のあるまち 68.3% 魅力的なまち 75.5% 身近な自然環境が充実しているまち 72.9%
テーマ 05	インフラ施設が安心・安全に利用できるまち 75.3% 災害に強いまち 52.6% 以前より環境に配慮した行動をするようになった 67.1%

(4) 有識者ヒアリングの実施といただいたご意見

行政に求められる役割が複雑化・高度化する中、専門的な知見を有する外部有識者の意見も重要です。このたびの振り返りにおいても、計画策定時にご意見をいただいた有識者 17 名からヒアリングしました。いただいたご意見は、「中期計画全体」及び「基本戦略のテーマ」ごとに掲載しました。

【ご意見をいただいた有識者一覧】

※敬称略、肩書はヒアリング当時

佐土原 聡	横浜国立大学 名誉教授
藤原 徹平	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 都市イノベーション部門准教授
大森 文彦	東京科学大学環境・社会理工学院 建築学系准教授
田口 真穂	横浜薬科大学 薬学部 准教授
大杉 覚	東京都立大学 法学部教授
川本 守彦	横浜商工会議所 副会頭
小野寺 拓	日本銀行 横浜支店長
石川 義弘	横浜市立大学 学長
千田 美佐	株式会社横浜銀行 地域戦略統括部長
秋山 純一	日本労働組合総連合会 神奈川県連合会 横浜地域連合議長
伊藤 薫	株式会社テレビ神奈川 常勤監査役
南雲 岳彦	一般社団法人スマートシティ・インスティテュート 代表理事、慶応義塾大学 教授
相馬 直子	横浜国立大学 大学院国際社会科学研究院 教授
鴨志田 晃	東京国際大学国際戦略先端技術研究所 教授
高橋 晶子	EY 新日本有限責任監査法人 シニアマネージャー 公認会計士
江夏 あかね	株式会社野村資本市場研究所 野村サステナビリティ研究センター長
望月 正光	関東学院大学 名誉教授

①中期計画全体

- ・計画期間は、新型コロナウイルス感染症の流行からの社会経済活動の正常化、物価高騰、人手不足などの新たな課題が同時進行した非常に変化の大きい期間であった。そのため、計画策定時の前提条件が大きく変化する中での取組となったが、そのような状況下でも一定の成果を挙げたことは評価できる。今後は、不確実性の高い時代を前提として、変化への対応力やレジリエンスを高める視点がこれまで以上に重要となる。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行や物価高騰など、計画策定時には想定が困難であった外的要因が大きく影響した計画期間であったことを踏まえると、中期計画の成果を分析するに当たっては、これらの影響を考慮する視点が重要である。目標の達成・未達成のみを見るのではなく、社会情勢の変化による影響も併せて検証することで、行政の取組の効果、さらには今後の課題をより適切に把握できる評価となる。
- ・行政計画においては、アウトプットだけでなくアウトカムを重視する流れが全国的に進んでいる。今回の中期計画では、その考え方を具体的な指標として導入した点は評価できる。一方で、アウトカム指標は社会経済情勢や市民意識など行政だけではコントロールできない要因の影響も受けるため、指標の設定や目標値の妥当性の確保には難しさが伴う。今回得られた知見は、今後の計画策定や評価制度の成熟につながる貴重な成果である。さらに、その結果を踏まえ、「横浜市中期計画 2026-2029」では政策・施策体系図の整理や指標設定手法の見直しなど、評価の精度向上に向けた改善が図られていることは評価できる。

②テーマ1 子育て世代への直接支援【戦略1】

- ・経済的支援の拡充や保育受入枠の確保を着実に進め、待機児童ゼロを維持するなど、これまで他都市と比較して課題とされてきた分野で前進したと感じている。今後は、支援策の数や量を増やすことに加え、各家庭の状況に応じて必要な支援へ確実につなげる「質」の向上が求められる。子育て世代が支援を利用しやすく、実際に安心感につながる仕組みづくりとその結果を評価する仕組みが重要である。
- ・行政手続や相談機能のデジタル化は、市民の利便性向上に寄与し、支援情報へのアクセス改善という成果をもたらした。一方で、福祉的支援を必要とする方々の中には、制度を自ら探し申請することが難しい層も存在する。DXは支援の基盤として有効であるが、今後はデジタルと対面支援を組み合わせたハイブリッド型の支援体制を構築し、「取り残さない行政」の実現を目指すべきである。
- ・少子高齢化や単身世帯の増加、地域コミュニティの希薄化等を背景に、人と人とのつながりが弱まる傾向にあった。こうした中、新型コロナウイルス感染症の流行がその傾向に拍車をかけ、支援を必要とする人の把握や早期発見を困難にした。とくに孤立や複合的な課題を抱える世帯への支援では、「つながり」の有無が大きな影響を与える。民間とも連携しながら、必要な施策が必要な人に届く仕組みの構築が重要である。
- ・医療の発達で助けられるこどもが増えた。その子たちが成長できる環境を整備していかなければいけない。医療的ケア児サポート保育園数を増やすのは良い取組。加えて、学校看護師の充実等、親の付き添い解消のための事業がとくに画期的だと感じる。特別支援学校、福祉タクシー助成等の改善した取組をもっとPRしてほしい。横浜での取組を伝えて知ってもらうことで将来の安心につながる。

③テーマ2 コミュニティ・生活環境づくり【戦略1】【戦略2】【戦略5】【戦略7】

- ・健康、スポーツ、福祉のいずれの分野においても、自ら情報を得て行動できる人への支援だけでは限界があることが明らかになった。今後は、支援を必要としていても行政や地域との接点を持ちにくい人に対して、積極的に働きかけるアウトリーチの視点を強化するとともに、行政の施策・事業の効果的なPRの推進、多様な主体が連携しながら地域全体で支え合う仕組みづくりを進めることが重要である。
- ・健康寿命の延伸や生活習慣病による早世の減少、がん検診受診率の向上については、新型コロナウイルス感染症の影響により受診控えや行動変容が生じたことから、目標達成が難しい状況であったと考えられる。一方で、新型コロナウイルス感染症の収束以降もインフルエンザ等が流行するなど、各種感染症の流行は発生している。これらの結果、健康への関心は高まっており、今後は健診や検診の受診勧奨をはじめ、予防を重視した取組をさらに強化していくことが重要である。
- ・新型コロナウイルス感染症の流行により地域活動や対面での交流機会が減少したことで、人と人とのつながりがさらに希薄化し、支援を必要とする方の把握や早期支援が難しくなった。今回の結果からは、福祉施策においては制度やサービスの充実だけでなく、地域との関係性や見守りネットワークの維持・再構築が極めて重要であることが改めて示された。
- ・スポーツ実施率は、新型コロナウイルス感染症の流行における健康志向の高まりを背景に一時的に上昇した時点の数値を基準として目標設定が行われたが、その後は全国的にも低下傾向が見られた。このように、市民の行動変容や社会情勢などの外的要因によって数値が変動する分野では、指標や目標値の設定に難しさがあったものと考えられる。一方で、実績を見ると、市民がスポーツに触れる機会の拡大や運動習慣の定着に向けた取組は着実に進められている。社会環境の変化に柔軟に対応しながら取組を継続してきた過程についても適切に評価することが重要である。

④テーマ3 生産年齢人口流入による経済活性化【戦略4、戦略5、戦略9】

- ・本計画期間は、新型コロナウイルス感染症の流行による停滞からの経済活動の回復に加え、物価高騰や原材料価格の上昇、人手不足の深刻化など、地域経済を取り巻く環境が大きく変化した期間であった。生産年齢人口の流入や経済活性化は、こうした外的要因の影響を受けやすい分野であり、計画策定時の前提条件が大きく変化する中で取組であったことを考慮する必要がある。
- ・市内企業の大半を占める中小企業は、物価高騰や人材確保の難しさなど、これまでになかった経営課題に直面した。その結果、経営や雇用に関する指標の達成は容易ではなかったが、そのような状況下で企業の事業継続や雇用維持を支えた取組には一定の成果があったものと評価できる。今後は生産性向上や人材確保支援を一層強化することが重要である。
- ・郊外部の開発や土地利用は、資材価格の高騰や建設コストの上昇、働き方や居住ニーズの変化などの影響を大きく受けた分野である。一方で、こうした環境変化の中でも将来を見据えた基盤整備やまちづくりの取組は継続されており、短期的な成果だけでなく中長期的な視点から評価をすることが重要である。
- ・生産年齢人口の流入は自治体の努力だけでなく、社会経済情勢や企業立地、働き方の変化など様々な要因の影響を受ける。今後は人口流入そのものを目的化するのではなく、働く場、住環境、子育て環境、交通利便性など都市の総合的な魅力を高めることで、結果として人や企業から選ばれる都市を目指していくことが重要である。

⑤テーマ4 まちの魅力・ブランド力向上【戦略6、戦略7】

- ・観光分野については、新型コロナウイルス感染症の流行による大きな落ち込みを乗り越え、観光消費額や来街者数が過去最高水準となるなど、横浜の魅力やブランド力が改めて国内外から高く評価された。まち全体を舞台としたイベントの開催や都心臨海部の魅力向上、インバウンド需要の回復など、これまでの取組の成果が着実に現れているものと評価できる。また、民間調査における「住みたいまちランキング」1位や「日本新三大夜景都市」への選出などからも、その魅力が客観的に評価されていることがうかがえる。
- ・緑地や農体験などの自然体験分野は、新型コロナウイルス感染症の流行期において密を避けながら楽しめる活動として需要が高まったが、社会経済活動の正常化に伴い、旅行やイベントなど市民の余暇活動の選択肢が広がったことで相対的に利用が減少したものと考えられる。こうした結果は施策の効果だけでなく、社会環境の変化が大きく影響したことにも留意する必要がある。
- ・今後は、横浜グリーンエクスポの開催地であることも踏まえ、観光と自然体験を個別に捉えるのではなく、「都市と自然が近接している横浜ならではの魅力」として一体的に発信していくことが重要である。都市観光に加え、里山や農、緑地などの地域資源を活用した体験価値の向上は、他都市との差別化やブランド力のさらなる向上につながるものと期待される。
- ・まちの魅力やブランド力は、社会情勢や市民の行動変容によって大きく左右されるため、利用者数や来訪者数といった短期的な指標のみで評価することには難しさがある。観光需要の回復や自然体験への関心の変化なども踏まえながら、多様な魅力を継続的に発信し、選ばれる都市としての価値を高めていく視点が重要である。

⑥テーマ5 都市の持続可能性【戦略3、戦略8】

- ・今回の結果からは、物価高騰や人材不足、感染症の流行など、外的要因が都市の持続可能性に大きな影響を及ぼすことが改めて示された。今後は目標達成の可否だけでなく、予期せぬ環境変化の中でも事業を継続し、市民サービスや都市機能を維持してきた過程についても評価することが重要である。変化に柔軟に対応できるレジリエンスの高い都市づくりと安心感につながるPRが今後ますます求められる。
- ・都市基盤整備の分野では、資材価格や労務費の上昇など物価高騰の影響を大きく受け、整備進捗率が目標に届かなかった。しかし、これは横浜市に限らず全国的な課題であり、計画策定時には想定が難しかった社会経済環境の変化による影響も大きい。目標達成の状況だけでなく、限られた財源や事業環境の中で着実に事業を推進してきた点も評価する必要がある。
- ・消防団員の充足率などが目標未達となった背景には、少子高齢化や就業形態の多様化に伴う担い手不足の影響があると考えられる。これは一自治体の取組だけで解決できる課題ではなく、全国的な構造課題でもある。今後は人材確保だけでなく、DXの更なる推進や地域団体との連携強化など、持続可能な地域防災体制の構築に向けた取組が重要となる。
- ・ごみの分別率については、新型コロナウイルス感染症の流行期において衛生面や感染防止を優先し、分別されていない廃棄物も収集対象としたことから、一時的に焼却するプラスチック量が増加する結果となった。この結果のみをもって施策を評価するのではなく、市民生活の安全確保を優先した対応であった点も踏まえ、多面的に評価することが必要である。

⑦行政運営

- ・コロナ禍や物価高騰など環境変化が生じる中でも、DX の推進や事業評価制度の再構築、データ活用の推進など、市政運営の基盤に係る改善を着実に進めてきた点は評価できる。今後も、少子高齢化や人口減少、人材不足、インフラの老朽化といった課題が深刻化する中、限られた経営資源を有効活用しながら行政サービスを維持・向上していくことが重要である。重点課題に対する成果や市民サービスへの効果（アウトカム）を重視し、評価結果を施策改善や予算編成につなげていくことが望まれる。
- ・人材確保が厳しくなる中、多様な採用手法の導入や働きやすい職場づくりに取り組んできた点は評価できる。一方で、長時間労働の解消等に向け、業務の効率化や適切な人員配置、人材育成を通じて持続可能な組織運営を進めることが求められる。
- ・オンライン手続きの推進やデジタル技術を活用した業務効率化など、DX の取組は着実に進展している。今後は、市民がその利便性や効果を実感できるよう、利用促進やサービス向上につなげていくことが重要である。
- ・民間事業者との連携や市民参加の取組は、行政課題の解決や新たな価値創出に向けた有効な手法として評価できる。今後も多様な主体との協働・共創を進めるとともに、市民ニーズや地域課題を的確に把握し、収集した意見やデータを施策・事業の改善に反映していくことが期待される。

⑧財政運営

- ・財政ビジョンに基づく目標設定・進捗管理・振り返りが着実に実施されており、ガバナンスや PDCA サイクルが機能している点を高く評価する。借入金残高の縮減や財政目標の達成は大きな成果である。今後も財政の健全性を維持していくためには、将来の少子高齢化を見据え、中長期的な視点を持って取り組んでいく必要がある。
- ・市債は将来世代も利用する施設整備において重要な財源であり、世代間負担の公平性の観点から適切に活用すべきである。一方で、今後の金利上昇局面を見据え、債務残高だけでなく償還スケジュールや金利負担の管理を強化するという視点も必要である。
- ・ESG 債や浸水レジリエンス債、公債管理レポートなどの先進的な取組は市場から高く評価されており、今後も先導的役割が期待される。
- ・市税収納率は、目標値未達成ではあるものの、他都市との比較で見れば十分に高い水準にあると認識。ただし、電子納税のさらなる推進など、収納率向上のための努力を続けていくことは重要である。
- ・公共施設の老朽化対応については、施設統合や長寿命化などファシリティマネジメントの取組を評価する。一方で、建設コストや人件費の上昇を踏まえた優先順位付けと執行管理が必要である。
- ・減債基金の臨時的活用については、市場関係者を始めとして対外的にも注視される課題である。財政運営に対する信頼確保の観点から、可能な限り早期の解消に向け引き続き取り組んでほしい。
- ・財政広報については、様々な財政広報媒体により情報発信がなされていることを評価する。今後は自治体 DX も取り入れながらさらに効果的・効率的に取り組めると良いのではないかな。

4 本資料の位置づけ

中期計画では、政策・施策を効率的・効果的に推進するため、設定した指標の状況などを毎年度確認し、施策・事業の質の向上や創造・転換等を行うなど PDCA サイクルを機能させ、計画の進捗管理を行ってきました。本資料では、最終振り返りとして、中期計画に掲げた政策・施策等について、計画期間4年間の実績を掲載しています。

また、資料編 174～194 ページにある「主な取組」の各項目の令和7年度の状況は、「横浜市将来にわたる責任ある財政運営の推進に関する条例」第5条に基づく、取組の進捗状況報告です。

令和8年9月

編集・発行 横浜市政策経営・国際戦略局経営戦略課

〒231-0005 横浜市中区本町6丁目50番地の10

電話 : 045(671)2010

FAX : 045(663)4613